

源平の戦い後の頼朝の政治	()組	氏
	()番	名

そうたさんは、平氏と源氏の戦いを学習する中で、自分の親せきが住んでいる椎葉村では、毎年「椎葉平家まつり」が行われていることを思い出し、調べてみると、この祭りは、椎葉に伝わる資料1のような伝説をもとに始まったということが分かりました。そうたさんたちの学級では、資料2・3の年表も見比べながら下のような話合いをしました。

資料1 「鶴富姫と那須大八郎の物語」

壇ノ浦の戦いの後、椎葉までにげてきた平氏の武士たちのもとへ、源氏の総大将頼朝の命を受けて大八郎が向かった。しかし、ひっそりと暮らす平氏一門を見て追討を断念。そのまま椎葉にやしきを構え、平家の守り神である巖島神社を建て、人々といっしょに暮らし始める。そこで、平清盛の子孫である鶴富姫と出会い、二人の間に恋心がめばえ、やがて二人は結婚する。しかし、大八郎へ鎌倉へもどってくるようにとの命令がとどき、こどもを身ごもった姫を置いて、別れが訪れた。

※宮崎県観光推進課ホームページ「一村一祭」より作成（一部小学生向けにことばを変更）

資料2 「平清盛の主なできごと」

年	主なできごと
1159	源頼朝の父（義朝）を平治の乱で破る。義朝の子の頼朝や義経は処刑しなかった。
1167	太政大臣になる。
1172	①
1180	孫が天皇になる。

資料3 「源頼朝の主なできごと」

年	主なできごと
1159	平治の乱で平氏との戦いに
1160	敗れ伊豆に流される。 (約20年間監視されながらの生活)
1180	平氏をたおすために兵をあげる
1185	弟の義経が壇ノ浦で平氏をほろぼす
1192	征夷大將軍となる

そうた： 壇ノ浦の戦いの後も、負けた平氏を追う源氏がいたなんてびっくりしました。

先生： そうですね。平氏が逃げてきたという伝説が残っている地域は、椎葉村の他にも、全国各地の山間部にたくさんあるそうですよ。

ゆきこ： 「平氏にあらずんば、人にあらず」という言葉があったほど、平氏は栄華をきわめていたのに、どうして源氏に負けちゃったんだろう。

先生： 源義経の活躍など、いろいろ理由はあると思いますが、②貴族の藤原氏が栄えていたころと同じような政治を行った平氏に対して、まわりの武士たちの不満が高まっていったことも原因の一つかもしれませんね。

それにしても、壇ノ浦の戦いで決着がついているのに、源頼朝は、どうしてその後もしつこく平氏を追いかけさせていたのでしょうか。

りゅうせい： それは、③ だと思います。

(1) 前のページの会話文中の下線部②のような政治として、資料2の年表の①の部分に行われたことを、下のア～エから1つ選び、記号をまるで囲みましょう。

- ア 家柄や出身地に関係なく能力や功績で役人を取り立てた。
- イ むすめを天皇のきさきとしたり、平氏一族を多くの重い役につかせたりした。
- ウ 仏教の力で国を治めようと願い、国ごとに国分寺を建てることを命じた。
- エ 中国から帰国した留学生らとともに天皇中心の国づくりを始めた。

(2) 前のページの会話文中の③に入る理由を、資料2・3の年表を参考にして頼朝の気持ちになって書きましょう。

から。

資料4 「源頼朝と宮崎県(日向国)の武士との関係」

- ㊦ 平氏が滅亡した壇ノ浦の戦いから3か月たった1185年5月、宮崎県(日向国)の武士の富山義良らを鎮西御家人(九州地方を治める家来)とする命令が出された。
- ㊧ 1189年の源頼朝による陸奥国(東北地方の一部)の藤原氏との戦いには、島津荘北郷(都城・北諸県地方)の武士も加わっている。
- ㊨ 後の宮崎県(日向国)で大きな力をもつ伊東氏の祖先である工藤祐経は、源頼朝の家来で東国の武士であったが、源頼朝から、1190年に、宮崎県(日向国)の中の一部の領地の管理・支配の権限をみとめられた。

※「宮崎県の歴史」山川出版社より作成

先生： 資料4は、「宮崎県の歴史」という本を参考にして、源頼朝と当時の宮崎県の武士との関係が分かる出来事を書き出したものです。これを読んで、壇ノ浦の戦いの後、頼朝が、どのようにして全国の武士たちを従えていったのか考えてみましょう。

そうた： 資料4を読むと、㊦と㊨は両方とも、「ご恩」と「奉公」の関係のうち④に当たりますね。

ゆきこ： でも、よく読むと㊦と㊨にはちがいがああるよ。

先生： 全国の武士を従えるために、いろいろな形で④の関係を保とうとしたのかもしれないね。

りゅうせい： ㊧を読むと、東北地方の戦いに、わざわざ宮崎からかけつけて参加していることがわかるね。すごいね。「いざ鎌倉」ということばどおりだね。

(3) 上の会話文中の④には、「ご恩」と「奉公」のうち、どちらの言葉が入るか選んで書きましょう。

(4) 上の会話文中に㊦と㊨にはちがいがああるとありますが、下の文はそれぞれ㊦と㊨のどちらについて説明したものですか。()の中に㊦または㊨の記号を書きこみましょう。

- () 元々家来であった武士に、新しい領地をあたえた。
- () 役職や領地をあたえて新しい家来をつくっていった。

(5) 頼朝が他の武士たちを従えていった様子を、「ご恩」「領地」「奉公」「いざ鎌倉」ということばを用いて文章にまとめて書きましょう。